

上坂原子力委員会委員長の海外出張報告

令和6年8月20日

内閣府原子力政策担当室

1. 出張先

オーストリア共和国（ウィーン）

2. 出張期間

令和6年6月30日（日）～7月4日（木）

3. 渡航目的

IAEAは2004年よりほぼ4年毎に、IAEA本部等でNuclear Knowledge Management（NKM；技術継承）及び Human Resource Development（HRD；人材育成）に関する国際会議を開催している。

本年はInternational Conference on Nuclear Knowledge Management and Human Resources Development（下記 NKMHRD）と題し、7月1日から5日にかけてIAEA本部にて開催。世界各国から1,000名程度が参加した。

原子力委員会 上坂委員長は、本件の基調講演およびセッション初日における副議長をIAEAより依頼され、IAEA本部に出張、講演及び各セッションに参加するとともに、関係者との会談等を実施した。

4. 主要日程

6月30日 東京出発

7月1日 NKMHRD (Day1) 出席：開会あいさつ、基調講演、副議長

2日 NKMHRD (Day2) 出席：講演、関係者との会談

3日 NKMHRD (Day3) 出席（午前の部のみ）

ウィーン出発

4日 東京着

5. NKMHRD 参加概要

【7月1日 NKMHRD (Day1)】

9:30 -10:00 Opening Session

議長及び副議長に任命された、各国際機関及び国代表者が登壇。開会あいさつを述べた。

（プログラム記載順）

- ラファエル・マリアーノ・グロッシー IAEA事務局長【議長】

- エルシー・プル 南アフリカ共和国
Eskom Holdings SOC Ltdカンファレンス会長
人事担当役員【副議長】
- 上坂 充 日本 原子力委員会 委員長【副議長】
- キム・プリングル サウジアラビア王国
アブドラ国王都市原子力再生可能エネルギー会議副議長
人材育成ディレクター【副議長】

10:00 -12:30 【Session 1】 Member States view on NKM & HRD

各国の原子力・エネルギー政策及び左記が原子力分野の技術継承・人材育成に及ぼす影響について15分程度で講演。各国のエネルギー政策の概要及びそれぞれの抱える技術継承・人材育成に関する課題、取組等を共有した。

上坂委員長は「MS view on NKM/HRD :New Builds and LTO in Japan」の標題で講演。GX基本法改正、高線量下での廃炉に向けた技術開発、次世代革新炉建設に向けた取組、核燃料サイクル政策、医療用等ラジオアイソトープ製造・利用推進アクションプランの策定等、我が国の近年の原子力政策の概略を紹介。

その後、IAEAと連携した原子力人材育成プログラム、日本の大学における原子力教育・研修のコンソーシアム、原子力人材等の技術力を担保する主要国の技術士 (Professional Engineer :PE) 資格認定制度を紹介した。

14:00 -15:30 【Session 2】 Member States view on NKM & HRD

午前中に引き続き、ハンガリー共和国、サウジアラビア王国、南アフリカ共和国、アラブ首長国連邦、米国等が各国の状況を紹介。上坂委員長は本セッションにおいても副議長を務めた。

16:00 -17:30 Women in Nuclear IAEA

原子力分野への女性の定着とキャリア開発のための戦略をテーマにパネルディスカッションが行われた。

【7月2日 NKMHRD (Day2)】 PEOPLE Develop, Empower, Lead

9:00 -10:00 【Keynote Session 3】

10:00 -11:00 【Plenary Session 4】

各国、機関の代表者が、人的資源開発、権限付与等について20分程度で講演。上坂委員長は「Professional Engineers for Nuclear Knowledge Management - Challenges in HRD-NKM, Leadership in Nuclear, Nuclear safety and security -」の標題で講演。日本では発電用原子炉の新規建設が約20年間なく、

1Fの事故後の約10年、運転実績もまだ少ない。このように、炉の建設・運転に携わった経験のある人材の減少により、中堅・若年層の技術者の知識・経験不足が深刻化している、我が国の原子力人材育成の現状を共有。様々な課題を踏まえたうえで、大学における高度な原子力人材育成プログラムや、東京大学のIAEA INMA (International Nuclear Management Academy) の認証を得た原子力マネージャー育成修士課程等、我が国における原子力人材育成の取組を紹介。更に主要国の技術士資格認定制度を紹介。技術人材の基盤と地位を強化する、国際通用性を持った原子力・放射線技術者の育成の重要性を強調するとともに、原子力・放射線分野技術士 (PE) の多様性の重要性を強調、IAEAへ世界での推奨の期待を語った。

【7月3日 NKMHRD (Day3)】 TECHNOLOGY Enabling Innovations and Knowledge

9:00 -10:00 【Keynote Session 7】

10:00 -11:00 【Plenary Session 8】

11:30 -13:00 【Session 9】

各国の原子力人材育成に係る最新の取組が発表された。



会場の様子



各国際機関、国の代表者らと交流する上坂委員長



副議長を務める上坂委員長



基調講演する上坂委員長

【所感】

我が国が直面する原子力人材の不足及びプラント設計・建設・運転等の実務経験の豊かな世代から中堅・若年層への技術継承等の問題について、特に前者については主要国共通の課題である。技術士等の高度専門人材育成は勿論、プラント建設・維持の基盤となる技術的専門人材の育成・拡充についても国家レベルで戦略的に進めている例が多く紹介された。

また、人材育成及び技術継承をテーマとした国際会議であったが、先進国はもとより中東、アフリカ地域の途上国含め、かつてなく多くの国々がSMR等原子力発電施設の新規導入を検討、建設・稼働に向けた取組を進める国際情勢の中、各国及び企業等ベンダーが野心的に様々な炉系の原子炉を研究開発中、新規参入国も導入に向け着々と国内の体制を構築する様子が肌で感じられる刺激的な場でもあった。SMRをはじめとする新型炉の世界的なシェア獲得競争が展開される中、様々な層の原子力人材育成の重要性を再認識した。

6. バイ会談

- 7月2日：IAEA 計画・情報・知識管理部 ポラス課長
原子力専門人材の育成に関し、IAEA側から、IAEA INMA修士課程と東京大学等によるe-learning教材を世界の原発導入国に提供し、その後技術士（PE）を取得させてはどうかとの提案があった。また、フランス等で実施中の高専・工業高校での職能向上のプログラムの重要性も共有した。今後、IAEA-日本側間で、実現に向けた議論を継続する。
- 7月2日：IAEA 原子力科学・応用局 物理・化学部 デネケ部長
医療用ラジオアイソトープ利用への取り組みについて情報を交換。9月のIAEA総会の際のサイドイベント開催の可能性等について協議した。

以上